

新聞馬対

(1) 平成3年6月28日 (金曜日)

社説

日韓海底トンネルの重要な位置を占める対馬で、対馬西岸から朝鮮海峡に向けての調査試験斜坑工事の地鎮祭が、昨年、萩原町阿連で行われたが、秋には起工式が行われる予定だ。

は、四年前、県議や町民、島民有志によって九州支部老岐分会を結成し、運動中である。対馬島民には計画の実態が明らかにされていなかっただけに支援組織はない。

同研究会は昭和五十八年に発足した。国際ハイウェイプロジェクトの一環として日本―韓国間に海底トンネルを建設するための研究機関だ。今日まで幅広い調査研究を積み重ね、九州本上西岸―老岐―対馬区或の幸、毎上郡

の概略調査をほぼ終えている。起点の佐賀県鎮西町では調査斜坑が四百十メートル掘られ、貴重なデータも収集された。老岐、対馬両島でのボーリングによる地質、海洋調査の結果、

一月訪韓した海部首相にも提案、海部首相は賛意を示した。そのことで波紋が政界を駆けめぐり、各界に広がっている。昨年十二月、英仏両国を結ぶユーロトンネルが貫通したこと

21世紀への夢

技術的に施工可能だ、という。昨年五月、訪日した韓国のノチウ大統領が、衆院本会議の演説で、日韓海底トンネルにふれた。ノ大統領は今、

対馬に世界的なトンネル博物館を建設したい。これが自分の夢でもある」と語っている。十年前のナヒーモフ金塊引き揚げの時、上対馬町に博物館をプレゼンする、とあったが、実現しなかったことが、ある。とにかく不言実行を歓迎する。

日韓トンネル構想を一日も早く、対馬島民に明らかにし、協力と理解を得ることが先決だろう。それが二十一世紀への大きな夢のブ